様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	甲南女子大学
設置者名	学校法人　甲南女子学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	日本語日本文化学科		6	10	0	16	13	
	メディア表現学科			8	0	14	13	
国際学部	国際英語学科			8	0	14	13	
	多文化コミュニケーション学科				0	14	13	
人間科学部	心理学科			8	0	14	13	
	総合子ども学科				0	14	13	
	文化社会学科				0	14	13	
	生活環境学科				0	14	13	
心理学部	心理学科			8	0	14	13	
看護リハビリテーション学部	看護学科			4	4	14	13	
	理学療法学科				4	14	13	
医療栄養学部	医療栄養学科			8	0	14	13	
（備考）2025 年 4 月心理学部開設。人間科学部心理学科は 2025 年度以降募集停止								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.konan-wu.ac.jp/publication（Web ページ内該当項目：5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること＞授業計画（シラバス）＞シラバス参照（時間割検索）で、実務経験を有する教員が実施する科目のプルダウンを「該当する」に選択し、「検索開始」を選択する。）

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	甲南女子大学
設置者名	学校法人 甲南女子学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

学校法人 甲南女子学園ホームページ（下記 URL）にて公表しています。
https://gakuen.konan-wu.ac.jp/message/index.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社阪急阪神ホテルズ取締役会長	2023 年 7 月 10 日から 2025 年 6 月 26 日まで※	理事長
非常勤	樽本機工株式会社代表取締役社長	2022 年 7 月 10 日から 2025 年 6 月 26 日まで※	理事小委員会構成員
（備考） 他、非常勤学外理事 8 名 ※重任予定：任期 2025 年 6 月 26 日から 2028 年度定時評議員会終結の時まで			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	甲南女子大学
設置者名	学校法人　甲南女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 本学では各授業科目担当者が、12 月末から 1 月末にかけて翌年度のシラバスを作成し、2 月上旬頃からホームページで公開しております。 　シラバスの入力マニュアルを作成し、各教員（専任教員、非常勤講師問わず）に配付しております。マニュアルには、授業内容（概要)、授業計画、到達目標、成績評価、オフィスアワー、準備学習等（予習・復習）について、シラバスに明記する旨と入力手順を記載しております。 また、入力したシラバスについては、授業担当教員ではない第三者の教員が内容をチェックし、適切に記載されているか教員間で相互に確認しております。	
授業計画書の公表方法	https://www.konan-wu.ac.jp/publication/ (Web ページ内該当項目：5.授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること＞授業計画（シラバス）)
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） シラバスの中に、成績評価について記載しております。授業参加態度、期末試験・期末レポート、小テスト・小レポート等の評価割合を明示し、これらに基づいて学修成果の評価を行い、単位認定しています。 　また、成績評価の基準については、100 点満点で 60 点以上を合格としています。AA（90 点以上)、A（80～89 点)、B（70～79 点)、C（60～69 点)、D（59 点以下：不合格）で判定しており（授業を一定回数以上欠席した場合等は F（失格))、全学生に配付している学生要覧等にも記載しております。	

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） （客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） 本学ではGPA制度を導入しており、具体的な算出方法は、以下のとおりです。 ポイントを、AA：4、A：3、B：2、C：1、D：0（FおよびPは除く）とし、 GPA＝（4×AAの単位数+3×Aの単位数+2×Bの単位数+1×Cの単位数+0×Dの単位数）／履修登録単位数（FおよびPは除く） 上記のとおりGPAを算出し、当該数値と学科学年内の相対位置を、個別の成績通知表等にも明記しております。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.konan-wu.ac.jp/publication/ （Webページ内該当項目：6 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること＞GPAについて）
４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 学科ごとに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）を、「知識・理解」、「汎用的技能」、「態度・志向性」、「統合的な学習経験と創造的思考力」の４つの学士力の観点から定めています。また、シラバスの「授業のねらい」や「到達目標」を、ディプロマ・ポリシーと関連付けて作成するようマニュアルにも記載する等、適切な実施に努めています。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.konan-wu.ac.jp/publication/ （Webページ内該当項目：1.大学の教育研究上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針に関すること＞ディプロマ・ポリシー(卒業又は修了の認定に関する方針)、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針)、アドミッション・ポリシー(入学者の受入れに関する方針)）

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	甲南女子大学
設置者名	学校法人　甲南女子学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://gakuen.konan-wu.ac.jp/data/
収支計算書又は損益計算書	https://gakuen.konan-wu.ac.jp/data/
財産目録	https://gakuen.konan-wu.ac.jp/data/
事業報告書	https://gakuen.konan-wu.ac.jp/data/
監事による監査報告（書）	https://gakuen.konan-wu.ac.jp/data/

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：2025 年度事業計画　　対象年度：2025 年度）
公表方法：https://gakuen.konan-wu.ac.jp/data/
中長期計画（名称：第 6 次中期計画　　対象年度：2024 年度～2026 年度）
公表方法：https://gakuen.konan-wu.ac.jp/data/

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/jihee_report/

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/jihee_report/

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　文学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）
（概要） ■文学部 人間が作り上げ育ててきた文化・言語および文学・芸術に対する深い関心と幅広い教養を身につける。加えて、言語ならびにメディアの運用力を修得し、円滑な人間関係を築くためのコミュニケーション能力と個性の発現である自己表現力を備えた人材を育成する。 ■文学部　日本語日本文化学科 日本語および日本文化についての豊かな教養を身につけ、多角的に社会を捉え、高度で実践的なコミュニケーションスキルを活用しつつ問題の解決にあたる、社会に貢献できる人材を育成する。 ■文学部　メディア表現学科 メディアを活用した表現行為を、発信と受信の双方向的関係のもとに捉え直し、その作用と影響を考察できる能力を身につけた人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）
（概要） ■文学部　日本語日本文化学科 １．知識・理解 (1)日本語・日本文学・日本文化について、その歴史的背景を含め、客観的・科学的な知識と教養を身につけている。 (2)日本語の口頭言語および書記言語の双方で、高度で実践的なコミュニケーションに関する知識と教養を身につけている。 (3)日本のみならず広く人間文化の根幹をなす、他者の尊重を軸とするホスピタリティ精神に関する知識と教養を身につけている。 ２．汎用的技能 (1)日本語・日本文学・日本文化に関するさまざまな問題について、それらを複眼的、論理的に分析し、的確に表現するとともに、他者を教え導く論理的思考力を身につけている。 (2)日本社会に関するさまざまな情報を収集・分析する情報リテラシーにくわえ、それらを書記言語・口頭言語を問わず適切に発信できる高度で実践的なコミュニケーションスキルを身につけている。 (3)人間相互の心の通った交流を軸とするホスピタリティ精神にもとづき、相手の立場によりそいつつ現状を見直し、さらなる改善をはかる問題解決力を身につけている。 ３．態度・志向性 (1)自らの力でつねに新たな日本語や日本文化の動向を理解し、また知識や能力の習得に努め、自らの問題解決に応用することのできる生涯学習力を身につけている。 (2)自己の意見を表出しつつ、他者の意見を傾聴し、他者と連携して問題解決にあたるチームワークを身につけている。 (3)社会にある多様な価値観を認め、他者との協調を重視しつつ自らの価値観を保持する高い倫理観を身につけている。 ４．統合的な学習経験と創造的思考力 (1)過去から未来へと続く日本文化に育まれた精神を見据え、かつ多角的な視点から自

らをとりまく社会の本質を捉える能力を身につけている。
(2)高度で実践的なコミュニケ―ションスキルを活用しつつ、現状の問題を認識し、その解決にあたる能力を身につけている。
■文学部　メディア表現学科
１．知識・理解
(1)イメージをカタチに変えて伝達するための思考方法、およびコンピュータなどを利用した表現技術を身につけている。
(2)メディア表現に関する幅広い素養をもち、得意とする分野の専門的な知識・技能を身につけ、自然・社会・文化と関連させながら理解している。
２．汎用的技能
(1)グラフィックデザイン、写真、アニメ、映画、マンガ、文芸、演劇など、視覚文化ならびに身体文化に関する基礎的な知識と制作方法を身につけている。
(2)メディアが社会や人間に与える影響について理解する能力を身につけている。
(3)メディアを効果的に活用し、表現やコミュニケーションをおこなう能力を身につけている。
３．態度・志向性
(1)メディア表現をめぐる文化的・社会的環境の変化に対する理解と主体的に取り組む能力を身につけている。
(2)コミュニケーションをデザインする能力と困難な問題に対する解決策を提案できる方法論を身につけている。
４．統合的な学習経験と創造的思考力
(1)理論と実践を有機的に結びつけ、作品や研究成果の発表、公演などの実践により、能動的な表現活動ができる能力を身につけている。
(2)メディアを批判的･主体的に読み解く能力を身につけ、メディアをめぐる諸問題について適切に評価し、問題解決に向けて努力する態度を涵養できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）

（概要）
■文学部　日本語日本文化学科
１．正しい日本語と奥深い日本文化を基礎から幅広く学び、将来に役立つ資格・技能の取得をめざし、３つの分野を設ける。
２．コミュニケーション実践分野では、コミュニケーションに関する知識と教養を深め、口頭表現や文章表現の能力を高め、日本語教員として、また、コミュニケーション産業で必要とされる能力を身につける。
３．ホスピタリティ分野では、ホスピタリティに関する知識と教養を深め、さまざまな実習や視察、インターンシップ等を通してホスピタリティ産業で必要とされる能力を身につける。
４．言語・文学・文化分野では、日本語・日本文学・日本文化についての知識と教養を深め、国語科教員・日本語教員として必要とされる能力を身につける。
■文学部　メディア表現学科
１．イメージを形象化して伝達するための思考方法、及びコンピュータなどを利用した表現技法を学ぶことができる。
２．グラフィックデザイン、写真、アニメーション、映画、広告などの視覚文化領域に関する基礎的な知識と制作方法を学ぶことができる。
３．視覚メディアをめぐる文化的社会的環境の変化に対する理解と批判能力を身につけることができる。
４．「基礎」、「発展」、「応用・発表」に区分して段階的に習熟させる教育課程を採用し、理論と実践を有機的に連結させ、ゼミ活動を重視した実践的教育を行うことができる。

５．学内に設置したギャラリーなどの展示空間において、作品、研究成果の発表を行い、評価を他者に求めるべく能動的な表現活動ができる。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）

（概要）

■文学部　日本語日本文化学科

日本語日本文化学科では、日本語や日本文化と、それらを基盤にした話し方などのコミュニケーション能力やホスピタリティの精神を学びます。これらの分野に強い関心のある学生を幅広く求めます。日本語日本文化学科では、以下のような学生を求めています。

１．関心・意欲・態度
日本語と日本文化に関心があり、この分野における多様な知識を学ぶ強い意志を持ち、人間性と文化を尊重する心を有する人

２．知識・教養
日本語日本文化の諸分野を学ぶにあたり、必要な基礎学力※を習得した人
※高等学校までに履修した主要教科(国語、英語、地理歴史、公民、数学、理科)の基礎的な知識

３．思考力・判断力・表現力
知識・教養を基盤として、深い思考をもとに適切な判断のできる人
柔軟な思考のもとに自由な発想で問題を解決しようとする人
コミュニケーション能力を向上させることができ、自己表現力を高めようとする人

４．協働性・主体性
思いやりの心を持ち、人と文化の多様性を尊重してチームワークのとれる豊かな人間性を持つ人

■文学部　メディア表現学科

メディア表現学科では、多様化する情報社会において、文字、画像、音、動画、身体、インターネットなどを用いたメディア表現への関心を基盤にして、メディア表現と人との関係や、メディア表現が社会に及ぼす影響を学びます。これらの分野に強い関心のある学生を幅広く求めます。メディア表現学科では、以下のような学生を求めています。

１．関心・意欲・態度
アナログ、デジタルと問わない幅広いメディア表現に関心があり、この分野における多様な知識を学び、表現を行うという強い意志を持ち、文化、特に創作活動を尊重する心を有する人

２．知識・教養
メディア表現の諸分野を学ぶにあたり、必要な基礎学力※を習得した人。及び、メディア表現への豊かな感情をもつ人
※高等学校までに履修した主要教科(国語、英語、地理歴史、公民、数学、理科)の基礎的な知識

３．思考力・判断力・表現力
知識・教養・感性を基盤として、深い思考力と豊かな感性をもとに適切な判断ができ、自分の考えを適切なメディアで表現できる人
多彩なメディアを柔軟に使い、自由な発想で問題を解決しようとする人
自己表現を追求できるだけでなく、自らが制作した表現を他者に伝えるコミュニケーション能力を高めることができる人

４．協働性・主体性
主体的に自己表現ができるだけでなく、チームでの表現のために必要な思いやりの心を持ち、人と文化と多様性を尊重する豊かな人間性を持つ人

学部等名　国際学部
教育研究上の目的(公表方法:https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/)
（概要） ■国際学部 現代のグローバル社会における社会的・文化的諸課題を理解し、実践的な外国語運用能力と高いコミュニケーション能力によってさまざまな領域で中核的・支援的な役割を果たすことのできる人材を育成する。 ■国際学部　国際英語学科 世界で仕事をし、貢献する視野とそれを支える知識と能力(世界と自らの文化に対する理解、批判的思考力、論理的表現力)、英語による国際的なコミュニケーションスキル、活動経験を有し、行動的で個としての強さをもった人材を育成する。 ■国際学部　多文化コミュニケーション学科 実践的な語学力(英語とアジア言語)を習得し、国際的教養及び行動力を身につけ、多様な社会的・文化的背景をもつ人々と協働してグローバル社会における課題解決に努め、国際・地域社会で活躍できる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/)
（概要） ■国際学部　国際英語学科 １．知識・理解 (1)World Englishes としての英語の現状と歴史的背景、現代英語の言語的特徴、外国語習得の理論について体系的に理解している。 (2)英語圏の地域文化・歴史と地域社会および国際社会の諸問題、外国語教育の分野について、専門的な視点から理解している。 ２．汎用的技能 (1)国際基準に照らして中級レベル以上の英語運用能力と、自律的な外国語学習能力を身につけている。 (2)異なる言語や文化的背景を持つ相手と積極的に関わり協働することのできる対人コミュニケーション力と発信力を身につけている。 (3)グローバル化が進む社会において、世界の諸問題についてメディアの情報を主体的・批判的に読み解き活用することができる。 ３．態度・志向性 (1)異なる言語や文化を背景にした価値観を受容・尊重し、多様な背景を持つ人と協働することのできる態度・志向を身につけている。 (2)英語学習や専門分野の学びを通して、困難な状況に柔軟に対応し、自律的に課題解決をすることのできる態度・志向を身につけている。 ４．統合的な学習経験と創造的思考力 (1)留学、在外研修、インターンシップ、ボランティア活動などを通して、自らの経験を言語化し、知識と経験を統合して課題発見や分析を行い、その過程や成果を他者と共有することができる。 (2)外国語教育、国際ビジネス、国際ホスピタリティ分野での学習やセミナー形式の授業を通して、知識と実践を結びつけて課題発見や課題解決にあたることができる。 ■国際学部　多文化コミュニケーション学科 １．知識・理解 (1)英語とアジアの言語について理解している。 (2)国内外において多様な文化的背景を持つ人々とコミュニケーションをとるために、文化・民族・社会問題などについて理解している。 (3)社会貢献や国際貢献の現状と課題についての基本的な知見を持っている。 ２．汎用的技能

(1)グローバル化が進む社会で、多様な文化的背景を持つ人々と積極的に関わりを持ち、コミュニケーションをとって協働するために十分な外国語と日本語の能力を身につけている。
(2)協働の場で生じるグローバル社会ならではの問題を理解する際に、メディアを主体的に読み解き活用できる。
(3)問題の基本的理解にもとづいて課題設定を行い、解決のために行動を実践にうつすことができる。
(4)課題解決のために必要なリーダーシップをとることができる。
３．態度・志向性
(1)多様な人々・文化に対する開かれた好奇心を持ち、柔軟な心で課題解決に向かって進んでいけるマインドセットを持っている。
(2)自律的、自主的に学習・研究・活動に取り組み、情報に批判的に向き合うことができる。
(3)自らの経験から得た知見を他と共有し、社会に自分を還元することによって、多文化共生に向けて社会参加・社会貢献に積極的に取り組む志向性を持っている。
４．統合的な学習経験と創造的思考力
(1)留学・国内外での研修・インターンシップ・ボランティアなど、社会の現場での学びを通して自らの体験を言語化できる。
(2)言語能力を活かしてコミュニケーションを取り、情報を発信することができる。
(3)多様な人々と効果的なネットワークを構築し、チームワークによって多文化社会における問題の解決に協働的かつ創造的に当たることができる

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）

（概要）
■国際学部　国際英語学科
１．学生の自律的な学習と批判的リテラシーを養うため、「e-pro」「World English Culture」「Professional and Career」の３つの科目群を設定する。
２．e-pro 科目群をとおして、読む、書く、聞く、やりとり、発表の各領域について 1、2 年時を中心に集中的な授業設定を行う。また「アドバンストコース」のグループと「英語基礎」のグループのための授業科目群を設定し、学生の英語力に応じた学びの機会を提供する。
３．World English Culture 科目群では、World Englishes の視点から現代の英語および、広義の英語圏の文化や社会に関する専門的科目を体系的に提供する。また、1 年次、3 年次、4 年次にゼミナール形式の授業を設定し、調査・分析・発表の活動をとおして批判的リテラシーを養う。
４．Professional and Career 科目群では、外国語としての英語教育、国際ビジネス、国際ホスピタリティ分野でのプログラムを設定し、知識を実践と結びつける機会を提供する。
■国際学部　多文化コミュニケーション学科
グローバル化が進む中、異なる社会で暮らす人々の異なる文化的背景、異なるものの考え方を持った人々と協働し、共生していくために必要となる知識・教養、コミュニケーション能力を修得し、実践的な活動的学習のなかで多文化共生社会に貢献できる能力を身につける。
１．英語、World Language 科目によって、実践的な外国語運用能力を身につける。また、日本語運用能力も向上させて、グローバル社会で通用する言語能力、コミュニケーション能力を養う。また、メディアリテラシーを向上させ、主体的に情報に相対する能力を養う。
２．異なる文化・社会を理解するために求められる知識・教養を身につけ、社会にはたらきかける協働的作業を実践するために必要となる、調査・分析・企画・チームビルデ

ィング・リーダーシップのスキルを養う。
３．長期短期の語学留学、文化研修、ボランティアプログラム、インターンシップなどの活動的学習によって、他者と協働して理論と実践を結びつけて課題を解決する能力を身につける。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）

（概要）
■国際学部　国際英語学科
国際英語学科では次のような資質を持った多様なタイプの学生を求めます。
１．関心・意欲・態度
英語及び、英語圏の文化や社会に強い関心を持っており、英語圏への留学によって英語の力をつけることに意欲のある人。また、英語教育や国際ビジネス・ホスピタリティの領域で、卒業後に英語力を活かすことに意欲のある人
２．知識・教養／知識・技能
小・中・高校での英語学習をふまえ、少なくとも CEFR A2 レベルの英語運用能力を持っている人
３．思考力・判断力・表現力
高等学校までに履修した主要教科の知識をふまえ、批判的思考力や論理的表現力の土台を持っている人
４．協働性・主体性
英語習得をはじめとする学習に対して主体的に取り組むことができるとともに、多様な人々と協働して学ぶ態度を持っている人
■国際学部　多文化コミュニケーション学科
多文化コミュニケーション学科では、文化的背景が異なる多様な人々からなる社会で生きるための、ことば・国際教養・行動力を総合的に学び、確かなコミュニケーション能力を身につけます。具体的には下記のような学生を求めます。
１．関心・意欲・態度
自分とは異なる文化や社会に強い関心を持ち、ステレオタイプを脱して異文化理解を探求する人
世界に目を向け、多様な文化的、社会的背景を持つ人々に出会い、意見を交し合う意欲をもつ人
グローバル社会の課題解決に向けて積極的に行動したいと考える人
外国語の高度な運用能力獲得をめざす人
２．知識・教養
英語、韓国語、中国語、インドネシア語のいずれかの言語の基礎的な力(CEFR A2 レベル)を持っている人
グローバル社会で生じる様々な課題に対する基礎的な知識を持っている人
３．思考力・判断力・表現力
グローバル社会の中で多様な人々と関わりながら、批判的思考力、論理的判断力を駆使して自身の意見を主体的に伝えられる言語表現力を持っている人
４．協働性・主体性
グローバル社会や地域社会の中で生じる様々な課題を理解し、多様な国や地域の人々の文化的背景に配慮しながら協働し、より良い社会を構築していく主体性を持っている人

学部等名　人間科学部
教育研究上の目的(公表方法:https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/)
（概要） ■人間科学部 現代社会に生きる人間を理解し、よりよく生きるために、人間とその環境の多様性・複雑性を科学的・総合的に探求し、社会に生きる人間に関わる現実的な諸課題・諸問題に実践的に関わり、解決していく人材を育成する。 ■人間科学部　総合子ども学科 人間に対する深い洞察と尊敬をもちながら、子ども学という学際的視野から社会・文化・人間のあり方を問い直す中で身につけた知識や技能を活かし、子どもを取り巻く諸問題を他者との協働の中で解決することを通して社会に貢献する人材を育成する。 ■人間科学部　文化社会学科 身近な現代文化に関する興味や関心を起点として、社会現象や社会問題を、幅広い視野で物事を多面的にとらえる社会学の技法を用いて分析し、自分の考えとして社会に向けて示すことができる人材を育成する。 ■人間科学部　生活環境学科 衣食住を中心に、環境に対する人のあり方、健康的な暮らしのあり方等について必要な知識・教養・技術を習得し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動する能力および態度を身につけた人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/)
（概要） ■人間科学部　総合子ども学科 １．知識・理解 (1)保育・教育・福祉・医療・心理などの領域で構成される子ども学の知識を深く理解している。 (2)子どもの成長発達を支えるために必要な専門的知識や技能を身につけている。 (3)子どもを取り巻く環境や事象が子どもの発達に与える影響や、保育者、教師、家庭・地域の人々が果たす役割について理解している。 ２．汎用的技能 (1)保育・教育に関する数量データを含む情報を自らの問題意識に基づいて収集し、統計学の技法等を活用して、論理的に分析・考察することができる。 (2)子どもの成長発達を支える現場の保育者、教師、家庭・地域の人々など立場の異なる他者に寄り添うことができる。 (3)他者の考えを受け止めながら自分の考え方が伝わるように表現し、問題の共有や解決のために協働することができる。 ３．態度・志向性 (1)人間の成長発達の最も重要な時期に保育者・教師といった職業人として関わることの自覚と責任感をもっている。 (2)従来のあり方に固執することなく、目の前にある問題や社会的課題の解決を目指して学び続ける姿勢をもっている。 (3)現場の保育者、教師、家庭・地域の人々など多様な他者と連携・協働し、子どもを第一に考えた判断ができる。 ４．統合的な学習経験と創造的思考力 (1)子どもの成長発達についての専門的知識や実践的な学びに基づいて、自ら計画を立案し、実践、振り返りのマネジメントを適切に行うことができる。 (2)子ども学の知識と、保育・教育現場における様々な経験を統合し、自ら課題を発見し、問題の解決策を提示し、それを実践することができる。

■人間科学部　文化社会学科

１．知識・理解

(1)文化と社会に関する幅広い教養と専門知識を獲得し、現代における人と人との結びつきを明らかにできる。

(2)身近な現代文化が自分たちにどのような影響を与えているのか、あるいは、社会のしくみとどのように関わっているのかを理解できる。

２．汎用的技能

(1)社会現象や社会問題に対する自らの関心を掘り下げて問題を設定し、社会学の概念を活用して、論理的に分析することができる。

(2)自分の考え方を相手に伝わるように表現し、相手の考え方も受け止めることができる。

(3)フィールドワークや社会調査など社会学の技法を用いて社会現象や社会問題に関する情報を収集することができる。

(4)統計的なデータ分析・プレゼンテーション・情報発信などを適切に行うことができる。

３．態度・志向性

(1)常に変化する現代社会において、さまざまな社会現象や社会問題に関心を向ける態度を身につけている。

(2)統計的数値・図表・解釈方法などをうのみにせず、根拠を重視して論理的に吟味する批判的思考の態度を身につけている。

(3)自分を見失わず、他者の考えを理解しつつ、多面的な解釈を行う態度を身につけている。

４．統合的な学習経験と創造的思考力

(1)社会学の知識と社会生活の現場に関する多様な経験を総合し、常識にとらわれず、社会現象や社会問題に対する自分なりの考え方を論理的に構築することができる。

(2)自分なりの考えを責任をもって他者に表現し、積極的に発信することができる。

■人間科学部　生活環境学科

１．知識・理解

(1)暮らしの基本である衣・食・住を中心に、心身の健康を促進するスポーツ・レクリエーション、自然との共生や経済問題、社会環境など、多様な観点から生活をより良くするための知識と理論を理解している。

(2)暮らしを豊かにする伝統的な生活文化と技術について学び、それらを科学的に理解することができる。

２．汎用的技能

(1)実験・実習・ものづくり・フィールドワークなど実践をとおして、生活をより良くする感性と技術を身につけている。

(2)生活をより良くするという観点から、生活を取り巻く種々の問題に常に関心をもち、その問題について論理的に分析し、具体的な解決策へ結びつけることができる。

(3)適切な情報発信やプレゼンテーションスキルなど、問題解決に向けて主体的に行動する方法を身につけている。

３．態度・志向性

(1)移り変わる新しい生活の情報を収集し、時代とライフステージに対応した知識、技能を得ようとする態度を身につけている。

(2)様々なイベントやボランティア活動などを経験し、主体的に活動しようとする態度を有している。

(3)地域・企業との産官学連携活動という協働的な学びを経験し、対人コミュニケーションを図ろうとする態度を身につけている。

(4)興味のある専門領域の資格取得に向け、高い意欲をもち継続的に学ぶ態度を有している。

４．統合的な学習経験と創造的思考力
(1)多岐にわたる学習内容を自分自身のより良い「ライフスタイルの創造」に向けて、環境や健康に配慮し実践することができる。
(2)持続可能な社会の実現に向けて様々な領域で活躍することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）

（概要）

■人間科学部　総合子ども学科

１．保育・教育の場で必要とされる実践力、現場対応力を涵養する。保育実習や教育実習をより深い学びとするための事前・事後指導の質的な充実を図る。並行して基礎演習、教職実践基礎演習、保育表現技術、また幼保実践演習や教職実践演習を段階・発展的に履修する。下記にも示す地域・子どもに関わる実際の機会を通してこれら実践力を高める。
２．子どもに関わる諸問題について、実際の保育・教育現場との関連を示しながら提供し、視点や知識の自覚化に基づく自律した学びを進める(実際の現場で求められる力は何かという問いを持ち、追究する)。具体的には、地域や子どもに関わる機会を学生自ら企画・演出し、保育・教育現場における必要な視点や知識を自覚し、随意的に発揮していけるよう、子ども学演習および卒業演習において理論化を目指す。
３．また、子どもの育ちに職業人として関わることの重要性の自覚とその責任感を涵養する。教育原理、保育原理、社会的養護といった教育・福祉の基礎理論に当たる学びに加え、子どもを総合的に学ぶ子ども学を履修する。これらを通し、教える者であるために必要な生涯学び続ける姿勢を養う。

■人間科学部　文化社会学科

文化社会学科では、身近な現代文化に関する興味や関心を起点として、さまざまな社会現象や社会問題が起こる背景を、フィールドワークや社会調査など社会学の技法を用いて分析する能力を身につけるために、次のようなカリキュラムを編成している。
１．実社会で活躍する女性をゲストとして招き、現場から見た現代文化の特徴、仕事をとおして社会と関わるうえで必要な能力や態度、女性のキャリアとライフデザインなどに関する講演を聞き、講演の要点と自分の考えをレポートとしてまとめる科目を１年次に設置。「総合科目・文化社会学Ⅰ・Ⅱ」
２．情報収集、調査、レポート作成、発表、ディスカッションなど、大学での学びに必要な基本的スキルを身につけ、幅広い視野で物事を多面的にとらえる社会学的思考力の基礎を学ぶ科目(多くは少人数制)を１年次から２年次に設置。「文化社会学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「文化社会学情報演習」、「はじめての社会調査」、「社会調査演習」、「フィールドワーク演習」、「インターネット社会論」
３．さまざまな現代文化を通して人間の行動や社会のしくみを深く見つめる科目を１年次から３年次に設置。(32 科目)
４．３年次以降に各自が関心のあるテーマを社会学的観点から掘り下げていくために、文化と社会の相互関係について総括する科目を２年次に設置。「文化社会学概論」
５．自分が関心のあるテーマを決め、各自が掘り下げて調査・分析・発表する少人数制の科目（ゼミ）を３年次に設置。「文化社会学演習Ⅰ・Ⅱ」
６．最も興味のある分野を選んで研究テーマを決め、本や資料を読む、インタビューで生の声を集める、雑誌や新聞の記事、インターネット上の情報を分析するなど、実際に調査を行い、自分なりの答えを導き出す少人数制の科目(ゼミ)を４年次に設置。「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」

■人間科学部　生活環境学科

１．生活環境に関わる諸問題を、学際的かつ実践的に学ぶ。

２．多岐にわたる学習内容を環境や健康に配慮したライフスタイルの創造という具体的な目標に向けて集約する。
３．はじめに、全教員がオムニバスで担当する入門科目によって、学科の理念、目標、学習内容の概要の周知を図る。
４．基礎科目と専門的科目を体系的に編成するとともに、専門の異なる複数の教員で担当する学際的科目と資格取得を視野に入れた科目を設ける。
５．1年次では、基礎演習として、大学での基本的な学びの方法、2年次では、より専門的な知の技法・研究手法を学ぶとともに、生活環境学の基礎領域を幅広く学修することによって視野をひろげ、専門教育に備える。
６．さらに、講義だけでなく、実験・実習、フィールドワーク、臨地研修等、体験型学習を併用することによって、知識の深化・体得を図るとともに、実践的技能を身につける。
７．専門科目及びゼミは、環境や健康に配慮したライフスタイルの創造に向けて、各分野の視点から、より深い専門的知識・技能の習得を図る。
８．4年次には、習得した知識・技能をもとに学生が主体的に選んだテーマによる卒業研究に取り組み、学びの集大成とする。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）

（概要）
■人間科学部　総合子ども学科
総合子ども学科では、次のような学生を求めます。
１．関心・意欲・態度
子どもや保育・教育に関心を持って学びを深め、保育士資格、教員免許状を取得し、それを実社会に生かそうとする人
２．知識・教養
子どもや保育・教育について学ぶにあたり、必要な基礎学力※を修得した人
※高等学校までに履修した教科の基礎的な知識
３．思考力・判断力・表現力
学んだことを基盤として合理的に考え、理性的に判断できる人
自分の考えたことを適切に表現できる人
４．協働性・主体性
進んで周囲の人たちと協働できる人
自ら考え、積極的に学ぶ姿勢を有する人
■人間科学部　文化社会学科
文化社会学科では、身の回りで起こっているさまざまな社会現象に対して、自ら動いて情報を集め、集めた情報をもとに自分で答えを出し、その答えを人に向けて的確に伝えることのできる人材を育成します。これらの諸能力は、実社会のどんな仕事や場面でも必要とされるものです。このような本学科の教育目標に基づいて、以下のような学生を求めます。
１．関心・意欲・態度
さまざまな現代文化・社会現象・社会問題に関心を持つ、好奇心旺盛な人
社会に氾濫する情報の真偽を自分の目で確かめ、周囲の意見に流されない自分の考えを持ちたいと思う人
インタビューやアンケートなどの「取材」（社会調査）の手法に関心がある人
２．知識・教養
社会学の諸分野を学ぶにあたり、必要な基礎学力※を習得した人
※高等学校までに履修した主要教科（国語、英語、地理歴史、公民、数学、理科）の基礎的な知識
３．思考力・判断力・表現力

ひとつの対象をさまざまな角度から事実(データ)をもとに考察することができる人
知識・教養を基盤として適切な判断のできる人
自分の意見やアイディアを的確な方法で表現することができる人
４．協働性・主体性
人と協力して、集団的な活動ができる人
自ら考えて動くことができる人
■人間科学部　生活環境学科
生活環境学科では、環境に対する人のあり方、暮らしのあり方を学び持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動する能力および態度を身につけます。生活環境学科では、以下のような学生を求めます。
１．関心・意欲・態度
生活環境に関わる諸問題に対する積極的な強い関心を持つ人
広い視野と旺盛な知的好奇心を持つ人
２．知識・教養
生活環境学科の諸分野を学ぶにあたり必要となる基礎的な計算能力、論理的な思考力、科学的な分析力を習得した人
３．思考力・判断力・表現力
物事を総合的に捉えて理解できる人
暮らしにおける問題を発見・把握する能力を有する人
４．協働性・主体性
自ら学ぼうとする情熱や習慣をもつ人
新しい課題に率先して取り組もうとする姿勢を有する人
多様な人々とコミュニケーションを図り、協力・調整しようとする人

学部等名　心理学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）
（概要） 心理学の基礎を身につけた上で、社会や身近にある課題に気づき、客観的な観察力、論理的な思考力、数量的なデータ処理能力、AI 等の先進的なテクノロジーの活用に加え、共感性及びコミュニケーション力を活用し、その解決に向けて取り組むことができる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）
（概要） １.知識・理解 (1)心理学の総合的知識。様々な対象やアプローチの仕方をもつ心理学諸領域の概念や理論を幅広く理解している。 (2)心理学の研究方法。心理学の多様な研究方法と分析方法を理解し、問題や目的に応じてデータ収集の仕方や分析方法を選択することができる。 (3)心の健康と心理支援の理解。精神的な健康や心理的な問題について基礎知識を有し、必要に応じて適切な心理支援を求めることができる。 ２.汎用的技能 (1)基礎的な研究能力。実験や調査の実施を経験し、数量的なデータの収集や統計的な分析を行い、その結果を図表化を含め適切に記述、考察し、発表する基礎的な研究能力を身につけている。 (2)情報収集とその活用。的確な情報検索ができ、得られた情報の精度を吟味した上で、必要な情報をもとに自ら判断することができる。 (3)コミュニケーション力。他者の意見を聞き、自分の考えを伝え、円滑で有益なコミュニケーションを維持する力を身につけている。 ３.態度・志向性 (1)人の多様性への尊重。人の多様性を深く理解し、互いの個性を尊重しつつ、様々な境遇にある人への共感や配慮ができる。 (2)他者との協働。自分の知識や能力を社会の中で発揮するとともに、他者の力を借り、協力する姿勢をもっている。 (3)成長・変化を受け入れる姿勢。人は生涯、成長・発達していくことを前提に、その時々で必要な知識・技能を学び続ける姿勢をもっている。 ４.統合的な学習経験と創造的思考力 (1)新たな問題への対処。困難な課題や逆境に直面しても、心理学の知識や身につけた技能を使って、問題解決に向けて対処することができる。 (2)社会貢献。社会や身近にある課題に気づき、自分が身につけた知識や技能を活用すると共に、他者と協力しながら、社会環境の改善に貢献する姿勢をもっている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）
（概要） 心理学科では、基本となる科目進行に加えて、それぞれの学生の興味や進路に応じて３つのプログラム（履修推奨科目群）を設定している。 【第１段階：心理学的リテラシー】 基本的な科目進行としては、まず心理学全般にわたる基礎知識や心理統計の基礎を学びつつ、同時に大学での学びに必要となるアカデミック・スキルを習得する。 【第２段階：実践・試行】 次の段階として、個別の専門領域の学びを深めるとともに、実際に実験や調査、心理査定を実施し、より専門的なデータ処理や論理的な文章作成を学ぶ。

【第3段階：専門性】 さらに、自ら主体的に問題を導出し、その解決・解明に向けて研究・開発を立案、実施するプロジェクト型学習やプロジェクト実践へと進む。 【第4段階：アカデミック・ライティング】 公認心理師プログラムでは、心の問題や心理支援の基礎的な知識と技能を学ぶ。 【第5段階：キャリアデザイン】 キャリア・マネジメントプログラムでは、社会で活躍できることをめざして、集団や組織に関する心理学や、AIをはじめとするテクノロジーの活用を学ぶ。 【第6段階：能力の統合化と実践】 ライフデザインプログラムでは、自分や他者の心を大切にしながら、精神的な豊かさを実現するために生活の中で活かせる心理学の知見を学ぶ。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）
（概要） １.関心・意欲・態度 人の行動や心理に強い関心をもち、それを一面的な見方ではなく、複眼的な視野で客観的に理解しようとする姿勢をもっている人 ２.知識・教養 幅広い心理学諸領域の知識を学ぶにあたり、高等学校までに履修した国語、数学、英語、地理歴史、公民、理科などの基礎的な学力を習得している人 ３.思考力・判断力・表現力 社会や身近にある課題に気づき、観察・観測されたデータや的確な情報に基づいて自分の意見をまとめ、表現できる人 ４.協働性・主体性 自主的、積極的に学ぶ意欲を持って、実験・実習などの少人数クラスによく適応し、主体的にグループワークに参加しようとする態度をもっている人

学部等名　看護リハビリテーション学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）
（概要） ■看護リハビリテーション学部 豊かな人間性を培い、高いヒューマンケアの視点で看護及びリハビリテーション領域の専門職者としての実践力を備え、医療及び保健福祉の分野で看護学科は看護師、保健師、助産師及び養護教諭として、理学療法学科は理学療法士として、地域社会及び国際社会において活躍できる人材を育成する。 ■看護リハビリテーション学部　看護学科 豊かな人間性と高い倫理観を培い、生命の尊厳を基盤に、対象者とその家族・コミュニティを中心にした看護が実践でき、地域・国際社会で活躍できる人材を育成する。 ■看護リハビリテーション学部　理学療法学科 生命に対する深い畏敬の念と倫理観を身につけ、科学的根拠に基づいた理学療法の専門的知識と技術を習得し、地域社会及び国際社会でチーム医療の一員として活躍できる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）
（概要） ■看護リハビリテーション学部　看護学科 １．知識・理解 (1)対象者とその家族・コミュニティを中心にした看護のために、ライフサイクルおよび社会環境を踏まえた対象理解ができる。 (2)科学的根拠に基づいた看護を実践するための、専門知識が理解できる。 ２．汎用的技能 (1)社会文化的背景の理解のもとにコミュニケーション能力を活かして、対象者と共に建設的で対等な関係性を築くことができる。 (2)多職種との連携においてチームの一員としての役割を理解し、メンバーシップ、リーダーシップが発揮できる。 ３．態度・志向性 (1)国際・情報化社会に柔軟に対応できる基礎的な能力を身につけ、グローバルな観点から看護を志向することができる。 ４．統合的な学習経験と創造的思考力 (1)人間を尊重する態度のもと、個人および集団に対する健康と生活の質の向上のために、その人々にあった創造的なケアの実現を目指すことができる。 (2)看護専門職としての責任と倫理的態度を身につけ、生涯学習者として自律・自立した学習を推進するための能力向上に努めることができる。 ■看護リハビリテーション学部　理学療法学科 １．知識・理解 (1)理学療法士に求められる倫理的態度を理解している。 (2)リハビリテーション医学に関する標準的な知識を身につけている。 (3)対象者を精神的、身体的および社会的側面から理解している。 ２．汎用的技能 (1)理学療法学領域や関連する学問領域の知識・手段を活用することができる。 (2)対象者の症状および病態、障害をリハビリテーション医学的に分析し、論理的に表現することができる。 (3)理学療法の専門性に基づき、保健・医療と福祉の連携のためにチーム医療の一員として行動することができる。 ３．態度・志向性

(1)対象者とその家族のために社会的責任を果たそうとする態度を示すことができる。
(2)対象者の健康を維持、増進するための理学療法の修得を志向することができる。
(3)様々な国の人・文化を理解し、理学療法士として国際的な視野をもつことができる。
４．統合的な学習経験と創造的思考力
(1)人間と社会、自然と環境について常に関心を持ち、主体的に学習を続けることができる。
(2)急性期医療から地域ケアにいたる課題を科学的根拠に基づいて探求することができる。
(3)国際的視野を持ちながら理学療法の専門性および新たな方向性を常に探究し続けることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）

（概要）
■看護リハビリテーション学部　看護学科
「豊かな人間性を培い、高い倫理観のもと生命への尊厳を基盤に対象者とその家族を中心にした看護を実践するための基礎的能力を修得する」という看護学科の教育目標を達成するために、次の７つの教育の柱をおく。
１)人間を尊重する態度と創造的ケアの実現
２)ライフサイクルを踏まえた人間理解
３)科学的根拠に基づいた看護実践
４)人間関係を培うコミュニケーション
５)国際・情報化社会に対応できるグローバルな観点
６)多職種連携における専門職の理解
７)倫理的態度を基にした自律的学習
■看護リハビリテーション学部　理学療法学科
社会人、医療人として必要とされる広範で多様な基礎的知識と基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する全学共通科目として基礎科目、教養科目、総合科目、言語・情報科目を配置する。特に、理学療法士になることへの強い意志と自覚を持たせ、学習意欲を高め、理解力と行動力を身につけるために、1年次・2年次では「基礎ゼミ」「応用ゼミ」、3年次では、「研究ゼミ」「理学療法計画論Ⅰ」「理学療法計画論Ⅱ」、4年次では「卒業研究」「理学療法総合演習」といった少人数制によるきめ細やかな教育体制を整備した。加えて「婦人科学」「ウィメンズヘルス」といった女性の見識を深める科目を整備した。
専門基礎科目と専門科目では系統的な積み重ね学習を行えるように講義と実技実習を交互に配置・開講し、幅広い視点を身につけると共にチーム医療の中で働く専門職としての共通認識を育むために看護学科との共通の講義も開講する。
このような教育成果として学生の知識・技能・態度を評価するために臨床実習前では客観的臨床能力試験(OSCE: Objective Structured Clinical Examination)を実施し、臨床実習後では卒業試験を課して、女性理学療法士としての清潔さ、誠実さ、忍耐力をも確認する体制を整備した。
以上をふまえて、医療・医学分野における科学的根拠に基づいた専門知識と臨床能力を段階的に学び、幅広い教養を修得し、心理面を含めて人を総合的に把握できる理学療法士を養成する。

入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）
（概要） ■看護リハビリテーション学部　看護学科 看護学科では、以下のような学生を求めます。 １．関心・意欲・態度 ①人とかかわることに関心を持ち、命の尊さや人々の健康、生活について理解しようとする人 ②知的好奇心が旺盛で、幅広い分野で自分の能力を高めたいという意欲をもつ人 ③相手の立場を思いやって考え、行動しようとする人 ④人と文化の多様性を尊重し、広い視野を持ちながら国際社会に貢献しようとする人 ２．知識・教養 ①看護学を学ぶにあたり、必要な基礎学力＊を身に付けた人 ＊高等学校までに学ぶべき教科（英語、国語、数学、理科、地理歴史、公民）を習得していること ３．思考力・判断力・表現力 ①柔軟な発想で物事を思考し、探究していこうとする人 ②知識・教養を基盤とした深い思慮と倫理観をもって物事を判断しようとする人 ③コミュニケーション能力を向上させることができ、自分の意思を表現できる人 ４．協働性・主体性 ①様々な人々と協力して主体的に行動することができる人 ②主体的に学び続けることができる人 ■看護リハビリテーション学部　理学療法学科 理学療法学科では、以下のような学生を求めます。 １．関心・意欲・態度 活動を通してひとの役に立てることに生きがいを感じる人 ２．思考力・判断力・表現力 問題解決のために努力を惜しまない姿勢を持ち、物事に対する理解力と行動力を身につけようとする人 ３．協働性・主体性 個別学習および集団学習で習得した理学療法の知識・技術を使って医療・地域社会に貢献しようとする意志の強い人 ４．知識・技能 自己学習力があり、高等学校までに学ぶべき教科(理科、数学、国語、英語、地理歴史、公民)を習得し、理学療法を学ぶために必要な基礎学力を身につけた人 このような学生を得るために多様な方法で選抜します。

学部等名　医療栄養学部
教育研究上の目的(公表方法:https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/)
（概要） 知性と品格を磨き、他者を思いやる豊かな人間性と倫理性を養うとともに栄養学の知識と実践力を修得する「全人栄養教育」を理念に掲げて、医療をはじめとする幅広い栄養学関連分野で管理栄養士として地域社会において活躍する人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/)
（概要） １．知識・理解 (1)食環境・食文化を含めた食に関わる幅広い知識と技能を修得し、栄養学の概念を論理的かつ科学的に理解している。 (2)健康の維持・増進、疾病の予防・療養、介護予防に必要な栄養学及び関連学問分野の知識と技能を修得している。 (3)医療に関わる専門職業人に必要とされる栄養学及び関連専門分野の知識と技能を修得している。 ２．汎用的技能 (1)栄養と健康に関して、科学的根拠に基づいた論理的な思考ができる。 (2)予防医学・治療医学の観点から、栄養が関わる諸問題を解決できる。 (3)多職種との連携において、優れたコミュニケーション能力により、メンバーシップ及びリーダーシップを発揮できる。 ３．態度・志向性 (1)職業倫理を基盤として、栄養管理に自律的に取り組む意欲をもっている。 (2)医療を中心とした栄養学及び関連学問分野を生涯学び続ける強い意志をもっている。 ４．統合的な学習経験と創造的思考力 (1)「全人栄養」を実践できる専門職業人として、自律的に課題を見出して解決する能力を身につけている。 (2)地域・医療・福祉等の分野における多様なニーズに対応できる最新の知識と技能を修得し、全人栄養を実践できる。 (3)常に自己を研鑽し続ける姿勢と能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/)
（概要） 医療栄養学科では、栄養学を幅広く修得して医療の領域を中心とした幅広い現場で管理栄養士として活躍できる人材の養成を目指す。教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)を以下のとおりとする。 １．全学共通科目においては、社会人としての知の基盤となる、教養と幅広い知識を身につけることで豊かな人間性を養う。 ２．1年次に導入分野を開講することで、管理栄養士及び医療分野における専門職業人としての将来の進路に関心をもたせる。 ３．1年次から「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム」の教育内容に沿った専門基礎科目を開講し、栄養学を勉学する意志を高める。 ４．2年次から専門基礎科目に加えて新たに専門科目を開講して、講義と実習や演習を有機的に組み合わせて学修することにより、医療栄養学の高度な専門知識と技能を修得する。 ５．3年次及び4年次においては、臨地実習を病院・老人介護施設・保健所・保健センター、特定給食施設などできめ細かな指導のもとに行うことで医療栄養学の知識に加

え技能を修得し、医療施設を中心とした幅広い現場で実践できる能力を養う。 ６．看護リハビリテーション学部との連携科目を開講し、チーム医療の重要性を理解するとともに医療現場における実践的な能力を養う。 ７．臨床現場での経験を有する管理栄養士である実務家教員による実践的な講義と演習により、チーム医療の一員として、 医療分野における専門職業人として活動できる能力を養う。 ８．４年次に卒業研究を全学生に課すことにより、医療栄養学における課題の発見・問題解決能力を涵養するとともに自学する能力を養う。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/admission/exam/policy/）
（概要） 医療栄養学科では、以下のような学生を求めます。 １．関心・意欲・態度 食と健康に関心があり、医療分野における栄養学を学ぶ強い意志をもち、人間性と生命に対する畏敬の念を有する人 ２．知識・教養 医療栄養学を学ぶにあたり、必要な基礎学力＊を修得した人 ＊高等学校までに履修した主要教科（理科、英語、数学、国語、社会）の基礎的な知識 ３．思考力・判断力・表現力 知識・教養を基盤として、深い思考のもとに適切な判断ができる人 柔軟な思考のもとに自由な発想で問題を解決しようとする人 コミュニケーション能力を磨くことができ、自己表現能力を高めようとする人 ４．協働性・主体性 思いやりの心をもち、多様性を尊重してチームワークのとれる豊かな人間性を持つ人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/publication/ (Web ページ内該当項目：2.教育研究上の基本組織に関すること)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	5 人	－					5 人
文学部	－	9 人	6 人	6 人	0 人	0 人	21 人
国際学部	－	13 人	4 人	2 人	0 人	0 人	19 人
人間科学部	－	21 人	7 人	4 人	1 人	0 人	33 人
心理学部	－	6 人	5 人	2 人	1 人	0 人	14 人
看護リハビリテーション学部	－	16 人	12 人	9 人	11 人	1 人	49 人
医療栄養学部	－	4 人	4 人	4 人	2 人	1 人	15 人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	258 人	258 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/dept_grad/teachers/

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

教育学習効果を最大限に高めるため、学生による授業改善のためのアンケートや、教員自ら「教員自己点検票」を作成し、教員の教育活動の振返りと改善を促しています。さらに、研修会の開催や各学科の FD 活動の情報共有を通して、教員の能力向上の支援を図っています。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員(a)	入学者数(b)	b/a	収容定員(c)	在学生数(d)	d/c	編入学定員	編入学者数
文学部	150 人	133 人	88.7%	600 人	600 人	100.0%	若干名	2 人
国際学部	190 人	150 人	78.9%	760 人	598 人	78.7%	若干名	0 人
人間科学部	310 人	286 人	92.3%	1,510 人	1,353 人	89.6%	若干名	12 人
心理学部	90 人	113 人	125.6%	90 人	113 人	125.6%	人	人
看護リハビリテーション学部	160 人	149 人	93.1%	640 人	612 人	95.6%	人	人
医療栄養学部	80 人	80 人	100.0%	320 人	338 人	105.6%	人	人
合計	980 人	911 人	93.0%	3,920 人	3,614 人	92.2%	人	14 人

（備考）2025 年度入学者より人間科学部心理学科は心理学部心理学科に変更。

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
文学部	180 人（100%）	1 人（0.5%）	167 人（92.8%）	12 人（6.7%）
国際学部	209 人（100%）	1 人（0.4%）	197 人（94.3%）	11 人（5.3%）
人間科学部	425 人（100%）	7 人（1.6%）	407 人（95.8%）	11 人（2.6%）
看護リハビリテーション学部	148 人（100%）	3 人（2.0%）	142 人（95.9%）	3 人（2.0%）
医療栄養学部	62 人（100%）	1 人（1.6%）	57 人（91.9%）	4 人（6.5%）
合計	1,024 人（100%）	13 人（1.3%）	970 人（94.7%）	41 人（4.0%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
進学先：大学院、学部専攻科など　就職先：一般企業、医療機関、学校、幼稚園、保育園など

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	176 人（100%）	166 人（94.3%）	5 人（2.8%）	5 人（2.8%）	人（　%）
国際学部	212 人（100%）	179 人（84.4%）	22 人（10.4%）	11 人（5.2%）	人（　%）
人間科学部	426 人（100%）	406 人（95.3%）	13 人（3.1%）	7 人（1.6%）	人（　%）
看護リハビリテーション学部	154 人（100%）	137 人（89.0%）	14 人（9.1%）	3 人（1.9%）	人（　%）
医療栄養学部	63 人（100%）	58 人（92.1%）	2 人（3.2%）	3 人（4.8%）	人（　%）
合計	1,031 人（100%）	946 人（91.8%）	56 人（5.4%）	29 人（2.8%）	人（　%）

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
本学では各授業科目担当者が、12 月末から 1 月末にかけて翌年度のシラバスを作成し、2 月上旬頃からホームページで公開しております。
　シラバスの入力マニュアルを作成し、各教員（専任教員、非常勤講師問わず）に配付しております。マニュアルには、授業内容（概要）、授業計画、到達目標、成績評価、オフィスアワー、準備学習等（予習・復習）について、シラバスに明記する旨と入力手順を記載しております。
また、入力したシラバスについては、担当教員ではない第三者の教員が、シラバスの内容をチェックし、適切に記載されているか教員間で相互に確認しております。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
シラバスの中に、成績評価について記載しております。授業参加態度、期末試験・期末レポート、小テスト・小レポート等の評価割合を明示し、これらに基づいて学修成果の評価を行い、単位認定しています。

また、成績評価の基準については、100 点満点で 60 点以上を合格としています。AA（90 点以上）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、D（59 点以下：不合格）で判定しており（授業を一定回数以上欠席した場合等はＦ（失格））、全学生に配付している学生要覧等にも記載しております。

学科ごとに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）を、「知識・理解」、「汎用的技能」、「態度・志向性」、「統合的な学習経験と創造的思考力」の 4 つの学士力の観点から定めています。また、シラバスの「授業のねらい」や「到達目標」を、ディプロマ・ポリシーと関連付けて作成するようマニュアルにも記載する等、適切な実施に努めています。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
文学部	日本語日本文化学科	124 単位	有	セメスター毎に 24 単位
	メディア表現学科	124 単位	有	セメスター毎に 24 単位
国際学部	国際英語学科	124 単位	有	セメスター毎に 24 単位
	多文化コミュニケーション学科	124 単位	有	セメスター毎に 24 単位
人間科学部	心理学科	124 単位	有	セメスター毎に 24 単位
	総合子ども学科	124 単位	有	セメスター毎に 24 単位
	文化社会学科	124 単位	有	セメスター毎に 24 単位
	生活環境学科	124 単位	有	セメスター毎に 24 単位
心理学部	心理学科	124 単位	有	セメスター毎に 24 単位
看護リハビリテーション学部	看護学科	124 単位	有	セメスター毎に 24 単位
	理学療法学科	124 単位	有	セメスター毎に 24 単位
医療栄養学部	医療栄養学科	124 単位（2022 年度以降入学） 128 単位	有	セメスター毎に 24 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/publication/（Web ページ内該当項目：6 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること＞GPA について）		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
https://www.konan-wu.ac.jp/about/information/estate
https://www.konan-wu.ac.jp/institution/map/
https://www.konan-wu.ac.jp/access/
https://www.konan-wu.ac.jp/campuslife/activities/club

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 （年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	全学科	760,000 円	250,000 円	450,000 円	教育施設充実費 35 万円 2 年進級時 4 万円増額 休学中の在籍料 10 万円
国際学部	全学科	760,000 円	250,000 円	450,000 円	
人間科学部	その他学科	760,000 円	250.000 円	450,000 円	
	総合子ども学科	760,000 円	250,000 円	450,000 円	教育施設充実費 35 万円 2 年進級時 7 万円増額 休学中の在籍料 10 万円
心理学部	心理学科	760,000 円	250,000 円	450,000 円	教育施設充実費 35 万円 2 年進級時 4 万円増額 休学中の在籍料 10 万円
看護リハビリテーション学部	看護学科	1,000,000 円	250,000 円	700,000 円	教育施設充実費 60 万円 2 年進級時 12 万円増額 4 年進級時 1 万円減額 休学中の在籍料 10 万円
	理学療法学科	1,000,000 円	250,000 円	780,000 円	教育施設充実費 68 万円 2 年進級時 9 万円増額 4 年進級時 1 万円減額 休学中の在籍料 10 万円
医療栄養学部	医療栄養学科	1,000,000 円	250,000 円	530,000 円	教育施設充実費 43 万円 休学中の在籍料 10 万円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）
家計の困窮度が高く、修学が極めて困難な学生に対して奨学援助を目的とした学資を給付する制度を複数設けています(各制度に採用人数・選考基準あり)。また、視覚・聴覚障害学生に対するピアサポートの基本理念に基づいた学生によるノートテイク制度の運用、発達障害や各種疾病による配慮が必要な学生に対して学生支援連絡会議で支援内容を決定し、各教員等へ支援内容を依頼することによる修学機会の確保、学生の保証人と学科教員が日頃の学習状況について直接懇談する教育懇談会の実施など、様々な支援を行っています。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）
卒業後の進路選択支援として、キャリアセンターを設置しています。求人票を公開し、就職に関する様々な相談や、履歴書を初めとする書類の添削、また、模擬面接、就職支援講座なども実施。学生がより良い進路を選べるように支援業務に当たっています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
こころの支援室では、臨床心理士が学生相談やカウンセリング等を行い、教員や保証人からの学生についての相談にも対応しています。また、障がいをもつ学生による自助グループのサポートも行っています。からだの支援室では学生定期健康診断や健康調査票によって学生の健康状態を把握し、疾患の早期発見治療を勧奨しています。また、学生の居場所の提供、体調不良時の休養場所の提供、怪我の応急処置を行い、必要に応じて医療機関を案内しています。看護職や医師による健康相談も行っています。学生の心身の状態に応じて、こころの支援室とからだの支援室で連携し対応にあたっています。どちらの支援室でも障がいを持つ学生の合理的配慮について、希望する支援内容の聞き取りや、会議の開催に携わっています。またどちらの支援室でも、心身の健康に役立つ情報を、ホームページに発信しています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.konan-wu.ac.jp/contribution/research/

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F128310108712
学校名（○○大学 等）	甲南女子大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人 甲南女子学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		391人（18）人	394人（31）人	420人（35）人
内訳	第Ⅰ区分	227人	226人	
	（うち多子世帯）	（　　人）	（　　人）	
	第Ⅱ区分	84人	85人	
	（うち多子世帯）	（　　人）	（　　人）	
	第Ⅲ区分	62人	52人	
	（うち多子世帯）	（　　人）	（　　人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	18人	31人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（0）人
合計（年間）				420人（35）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	－	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	－	人	人
計	13人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	－	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当）	－	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	29人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	－	人	人
計	30人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。